

## 文字の色について

赤文字：単語の意味の説明






青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

### 消防の仕事を知ろう②

いろいろな消防車

火事や救急活動などの災害に対応するために、消防自動車にもいろいろな種類があるよ。

<b>■水槽付きポンプ車</b> 車に水を積んでいるので、現場にいらすくに放水ができる	<b>■はしご車</b> 高い建物の消火や、逃げ遅れた人を助ける	<b>■救助工作車</b> 人命救助に必要な道具を積んでいて、交通事故や火事の現場などで活躍する車
		
<b>■救急車</b> ケガをした人や病気の人の救命処置を行い、病院までいち早く運ぶ車	<b>■特別高度工作車</b> 大量の風や雨による放水ができ、トンネルや地下道などで起きた火事で活躍する車	<b>■けん引工作車</b> 重量36トンまでの物を吊り上げたり、引っぱりすることができる
		

その他の消防自動車なども下のQRコードから見てみよう！

※横浜市消防局HP（主な配置車両）

横浜市消防局 主な配置車両

**お知らせ**

ウェブサイト上で動画等のコンテンツより防災を学べる。よこはま防災eパークを開設したよ。火災や地震などについて学べるだけでなく、消防職員インタビューなどもあるので、ぜひ見てね！

よこはま防災eパーク

### 大雪に備えよう

大雪が予想されるときは？

- 急ぎでない外出は避けよう
- 事前の備えとして、自宅に懐中電灯、携帯ラジオ、飲み水、食べ物などを準備しておこう
- 一酸化炭素中毒防止のため、家にパイプで外につながっている暖房機があったら、外の出口付近が雪でふさがれないよう気をつけよう  
\*FF式暖房機のこと、おうちの人に確認してみよう

雪かきを行うときは？

雪かき作業では、安全対策を図ることが大切だよ。家族や近所に声をかけ、準備運動をし、自分だけではなく、他の人も協力して行おう。また、高齢者の方が無理をせず雪かきができるよう、地域の人みんなで助け合おう。

### 火山災害に備えよう

市内全体でこんな影響が予測されているよ！

横浜市周辺には、富士山をはじめとして、箱根山や伊豆大島など、複数の活火山があるんだ。主に富士山が噴火したときは、火山灰が降ってくることが予測されているよ。

火山灰が降ってきたとき、とるべき行動

- 防じんマスク、ゴーグル（またはメガネ）をつける
- 灰が目に入ったら、手でこすらずに水で流す
- 長袖、長ズボンなどを着て、皮膚を守る
- 交通事故に気をつける（灰の量によっては外出しない）
- ドアや窓を閉め、建物の中に灰を入れないようにする

※食薬庁 火山に関する情報や資料の解説

※気象庁 火山に関する情報や資料の解説

※防災科学技術研究所 火山灰による健康被害

※防災科学技術研究所 火山灰

20

21

### 【児童考察】

横浜市は大雪が降る確率が少ない地域ではあるが、まれに5cm以上、場合によっては10cm以上の大雪が観測される年もある。また、帰省やレジャーなどで雪の多く降る地域を訪れる際には、大雪に備えた知識が必要である。決して他人ごとで関係ないというわけではないということを理解させ、知識を身につけさせる。

### 【大雪の備えのミニ知識】

大雪、暴風雪等が予想される場合には、以下の注意点を参考に、安全確保を心がけるよう努める。

#### 《雪かきの際の注意点》

- 横浜市民は大雪には慣れていないため、事故防止のためにも出来る限り不要不急の外出を避ける。
- 日頃からの災害の備えに追加して、寒さ対策グッズや雪かき用のスコップ、スノーブーツ、ヘルメットなどを準備する。

※参照：消防庁国民保護 防災部防災課「雪害に対する備え」

### 【雪かきのミニ知識】

#### 《雪かきをする際の順序》

1. 天気予報を確認する。雪が降っておらず、明るい時間帯にする
2. 雪かきに適した洋服に着替える。「防水・防汗・防寒」が基本。
3. 水路が側溝の場所を確認して、雪を捨てる。

大事なことは、雪かきをする前に周囲の人に雪かきをする旨を必ず伝え、複数人で作業する。また、全国的に除雪作業による犠牲者は7割が高齢者であるため、近隣住民で声かけし、高齢者が無理することのないよう協力して雪かきを行う。

※参照：横浜市「大雪に備えて」

### 【火山災害のミニ知識】

横浜市内には火山はないが、周辺には富士山や箱根山などがあり、これらの火山が噴火した場合には火山灰等による被害が出る可能性がある。噴火警報・予報などの情報を得た時は、次のことを参考に、自分自身の身を守る行動をとるよう心がける。火山灰はとても小さいので、空気と一緒に肺の奥まで入ってくる。そのため、せきが増えたり、息苦しくなったり、鼻水やたんが増え鼻やのどが痛くなることもある。ぜんそくや気管支炎の人は、発作のようなせきや、胸のしめつけ感、呼吸で苦しくなることなどがあるので注意する。

#### 《火山灰から身を守るポイント》

- ・火山灰が目や鼻、口に入らないように、マスク、ゴーグル（めがね）をつける。
- ・火山灰が目に入ったら、手でこすらない。コンタクトレンズをはずして、眼鏡を使う。火山灰が目に入ると、ごろごろとした感じがしたり、目のかゆみ、痛み、充血がおこったりする。ねばねばした目やにや、なみだが出ることもある。火山灰で目の表面に傷ができると、結膜炎になって、ひりひりしたり、まぶしく感じたりすることがある。
- ・長袖、長ズボン等を着て、皮膚を守る。火山灰にふれると、皮膚が炎症をおこすことがあり、痛くなったり、はれたり、ひっかき傷からばい菌がはいったりすることがあるので、注意する。
- ・火山灰が降ると見通しが悪くなって、横断歩道などの表示が見えにくくなる。道路に火山灰が積もると滑りやすくなって、自転車や自動車のブレーキがききにくくなる。極力、不要不急の外出は避ける。
- ・建物の中に灰を入れない。建物の中に入ったら、上着を払い灰を落とす。ドアや窓の隙間、通気口などをテープや湿ったタオルでふさぐ。

※参照：横浜市「火山災害について」